

教室の前でクラス全員に全裸を晒す羞恥

朝のホームルームが始まる直前、先生は厳しい表情で一部の生徒を前に呼び出した。「今日から新しい身体検査が行われます。男子生徒は前に出てください。そして下着を下ろすこと」と告げた。教室内に一種の緊張が走り、男子生徒たちから激しい抗議の声が上がった。

「何！？」と健太が叫び、「プライバシー侵害だろ！」と拓也が続いた。「女子がいる前で脱げるわけないだろ！」と悠太も大きな声を上げた。先生は容赦なく、「これは校則に基づくものです。健康管理と、怪しい物の持ち込みを防ぐため、下着を確認する必要があります。ズボンと下着を下ろして、裏側を見せてください」と説明した。

その瞬間、教室内は混乱の渦に包まれた。「マジでおちんちん出すの！？」「見られたくないよ！」と男子たちが叫び、「おちんちん出すなんてキモい！」と女子たちも反対した。「これって本気？」「冗談じゃない、絶対に反対！」と声が重なり合い、クラス全体が騒然となった。しかし、沙雪未をはじめとする何人かの女子は内心で興奮を隠せず、「おちんちん見られるかも...」と内心でつぶやいた。

健太はその言葉に反発しながらも、仕方なく前に出て、ズボンを下ろした。彼の黒いブリーフから引き締

まった下腹部が露わになり、ブリーフを下ろすと、彼の包茎のおちんちんが全員の視線に晒された。皮が先端を覆い、少し曲がった形で、先端はまるで隠れているかのように見えた。「きゃーっ！」と女子たちから悲鳴が聞こえる。「おお、健太のおちんちん包茎じゃん」と美咲がささやくと、教室内はざわめき始めた。健太の顔は真っ赤に染まり、「見るなよ...」と小さく呟くも、女子たちの視線は避けられなかった。美咲は興味深そうに見つめ、「健太の包茎かわいいかも」とささやいた。「見せつけちゃってて恥ずかしい」と笑った。佳奈子は健太を見つめ、心の中で「健太のおちんちんドキドキする...」と思ったが、表面上は「健太、泣きそうじゃん」と同情した。健太は教師が「ヨシ」と言うまでの間、羞恥心に耐え、「早く終わってくれ...」と何度も繰り返し、下着を上げる時も、その手は震えていた。女子たちは「健太、めっちゃ泣いてる」と笑い、沙雪未は「健太、かわいそう」とつぶやいた。

拓也は細身の体から長くて太いおちんちんを晒した。ズボンを下ろし、白いブリーフからそれが見えた瞬間、「うわ！」「マジで？」と女子たちから悲鳴が上がった。菜々子は「デカすぎない？」と小声で言った。ここで沙雪未はイタズラを考えた。挑発的に自分のブラウスを下に引っ張り、前屈みになって健太に谷間を見せつけた。「拓也、同級生のおっぱい見たことないでしょ？」と挑発した。彼のおちんちんはすでに丸出しで、沙雪未の谷間を見て硬くなったおちんちんがピクピクと動き、

先端から少し透明な液体が滲み、まるで生き物のように動き始めた。「やめて、勃っちゃう...」と心の中で叫んだ。沙雪未は拓也の反応を見て、「これが男の子だね」と笑い、菜々子は「拓也、反応しすぎ」と驚き、れいは「面白いね」と笑った。拓也が下着を上げる時、彼のおちんちんはまだ勃起していて、ズボンに収まりきらずに少し突き出していた。その姿を見て、女子たちは「拓也、まだそんなに硬いの？」「谷間だけでこんなに」とささやき合った。

悠太はぽっちゃりとした体型で、震えながらブリーフを脱いだ。彼の包茎のおちんちんは小さく、また「ひゃーっ！」と女子たちから声が上がった。佳奈子と美咲は「あ、悠太も包茎」とささやいた。悠太はその視線に耐えながら、教師が「ヨシ」と言うまで苦しんだ。沙雪未は挑発的に谷間を見せつけ、「悠太、こんなのどう？」と挑発し、彼も反応しておちんちんが硬くなった。ピクピクと動き始め、悠太は内心で「こんなに見られるのは恥ずかしい... 最悪だ、死にたい」と思った。「悠太、見すぎ」と沙雪未が笑った。下着を上げる際、悠太はまるで自分の存在が消えてしまいたいかのように、急いで下着を上げた。女子たちの間では「悠太の小ささヤバイ」とささやきが広まった。

翔はクラスのイケメンで、冷静さを保ちながらも、包茎の小さな先端を持つおちんちんに視線が集中するのを感じ、また女子たちから「きゃー！」と悲鳴が上がっ

た。「翔、包茎なの意外だね」とさくらが小声で言った。翔はその視線に耐え、教師の指示まで平静を装うしかなかった。沙雪未は挑発的に胸の谷間を見せつけ、「翔、私のおっぱいどう」とささやき、彼も反応し、おちんちんが硬くなりピクピクと動き始めた。先端が少し赤くなり、緊張からか小刻みに震えていた。沙雪未は「翔、弱いね」と笑い、翔は心の中で「こんなに見られると... 最悪だ」と困惑した。沙雪未の挑発に反応した翔を見て、佳奈子は「翔、かわいい」とつぶやき、美咲は「クールなのに、こんなに？」と驚き、海歌は「翔も男の子だね」と笑った。女子たちは翔のおちんちんを真剣に見つめ、「翔、カッコいいのに...」「翔の包茎、なんかエロい」とささやき合っていた。翔が下着を上げる時、彼のおちんちんはまだ少し赤く、皮が少しずれて先端が見えていた。特に沙雪未やさくらは翔のおちんちんに夢中になり、